

焼却施設と連携した高病原性鳥インフルエンザ発生時の殺処分鶏焼却試験

山城家畜保健衛生所

○田中 究 一星暁美

【はじめに】高病原性鳥インフルエンザ発生時における殺処分鶏の死体及び汚染物品の焼却処理体制を整備するため、H31年度より管内の一般廃棄物処理施設と焼却試験に向けて協議開始。R4年12月に鶏の殺処分訓練及び焼却試験を実施し、作業上の課題と今後の対応について検討。【材料及び方法】管内焼却施設（ストーカ式2炉、処理能力240トン／24時間）で、採卵鶏（586日齢、約2kg）294羽をポリ容器内で炭酸ガス殺処分し、密閉容器（45L及び65L）に7羽ずつ密封。密閉容器は、焼却炉建屋の職員通用口から小型の台車に4個ずつ載せて搬入し、メンテナンス用エレベーターにて5階のホップステージまで約32m移動して、投入ホッパー近くに一時保管。2基のうち1号焼却炉の一般ごみクレーン（1時間に約4回）投入後に、密閉容器をホップシュートへ1回当たり3個人力で投入。【結果】294羽の殺処分と密封に7名で80分、密閉容器42個の搬送に8名で15分を要した。搬送・投入作業の安全性、密閉容器の破損や投入口及び炉内での閉塞がないことを確認。当施設で24時間に約4,000羽焼却できることを確認。一般ごみのみを焼却した2号炉と比較し、炉内温度等の値に差なし。排ガス・焼却残渣中のダイオキシンその他の有害物質濃度（計13項目）に異常値なし。【今後の対応】引き続き焼却施設と連携するとともに、試験の結果を参考に具体的な作業手順の作成が必要。